平成18年4月9日

平成１７年度「教育研究支援プロジェクト経費」成果報告書

プロジェクトチームの代表者　部・講座等名　総合学習開発講座

氏　名　山崎洋子

プロジェクトの名称	テレビ会議システムを介した授業観察による「学び」の意味生成・変容過程に関する研究ー教員志望学生の教師アイデンティティの形成に向けてー	配分予算額	1,374,000円
プロジェクトの概要	本プロジェクトの目的は，①学部３年授業「総合演習」と大学院授業「総合学習総論Ⅱ」を受講している学生ら30名に対して，テレビ会議システムを介して，英国ロンドンの著名な公立初等学校・Eveline Lowe Primary School(以下，ELSと表記)の授業を観察し，②その受講生の参観記録から，学生がどのようなことを学び，そして自らの教育観，教職観を育て，どのように教職意識を育んでいくかを考察することであった。プロジェクト前半は，相手校との打ち合わせ，教室・授業選定，コディネーターとの打ち合わせだけでなく，本学の情報環境の変更が原因で平成16年度には極めて容易であった接続（計７回，35時間程度）に膨大な時間を費やした。また，様々な試行錯誤の末に接続に成功した後の授業参観の実現後も，音声の通信不良により，かなりの作業を要した。とはいえ，ELS及び鳴門教育大学のプロジェクト・メンバーの努力を，受講生は目の当たりにすることになったため，スタッフの本授業に対する願いや思いを熟知する結果となり，このことも功を奏した。それゆえ，４回の授業参観とインタビュー（計12時間）は，プロジェクト・メンバーはもとより，受講生にとっても大きな感動と喜びを与える結果となった。		
成果の概要	本研究では，以下の２点が明らかになった。 ① ELSの授業観察を介して，カリキュラム編成能力が教師に不可欠であり，そのためには多様な能力（子ども理解，教育内容の難易度理解，知識を総合化する能力など）が必要であるとの認識を受講生は得た。それゆえ，「異なる学校文化との出会い」が，教師アイデンティティの形成には不可欠である。 ②この認識に基づいて，受講生は，自ら習得・形成した教育や教職についての理論的・実践的な意味内容について，筋道を立てて要約し，自己表現することを体験した（およそ35時間）。これは指導教員が強制したものではなく，主体的・自発的な形でなされたものであり，この体験によって，受講生は個性と協同性を発揮しつつ自らの学びを再確認した。このことは主体的な学びの真の意味の自覚につながった，と解することができ，教師アイデンティティの形成には，「個性と協同性の双方を涵養する機会」が重要である，といえる。		

（注）１．箇条書き等により簡明に記入すること。
２．概要については，８００字程度にまとめること。
３．研究協力者として院生等が参加している場合，院生等の報告書があれば添付すること。
４．なるべくパソコン等で作成願います。